

令和2年上半期

火災・救急・救助統計 (7月30日時点速報値)



問い合わせ **火災** 予防課 ☎254-0356 ☎256-7755

救急 消防救急課 ☎254-1600 **救助** 消防救急課 ☎254-1601 いずれも ☎254-1607

火災 出火原因 1位は「放火の疑い」

上半期に発生した火災は58件で、昨年同時期と比較すると21件減少し、うち建物火災も10件減少しました。出火原因の1位は「放火の疑い(約19%)」でした。放火を防ぐために家の周りに可燃物などは置かないようにしましょう。

新型コロナウイルス感染症の影響で、家で過ごす時間が増えていると思います。火の取り扱いには十分注意し、早く火災に気付くために住宅用火災警報器を設置し、適切に維持管理しましょう。

火災概況 ▲は減を示す

区分	令和2年上半期	令和元年上半期	比較
火災件数合計(件)	58	79	▲21
火災種別(件)	建物火災	37	▲10
	うち住宅火災	19	▲3
	林野火災	2	▲2
	車両火災	5	▲1
	その他の火災	24	▲8
死者(人)	2	2	0
負傷者(人)	1	8	▲7

出火原因

単位は件、▲は減を示す

出火原因	令和2年上半期		令和元年上半期		比較	
	全体	住宅	全体	住宅	全体	住宅
たばこ	7	1	5	3	2	▲2
ごんろ	4	3	5	4	▲1	▲1
炉	0	0	1	0	▲1	0
焼却炉	0	0	1	0	▲1	0
ストーブ	4	4	3	3	1	1
排気管	2	0	0	0	2	0
電気装置	0	0	3	0	▲3	0
電気機器	0	0	1	0	▲1	0
内燃機関	0	0	1	0	▲1	0
電灯・電話等の配線	0	0	2	0	▲2	0
配線器具	2	2	6	4	▲4	▲2
火あそび	2	1	0	0	2	1
マッチ・ライター	2	0	0	0	2	0
たき火	7	0	16	0	▲9	0
衝突の火花	0	0	1	0	▲1	0
溶接機・切断機	2	0	1	0	1	0
灯火	0	0	2	2	▲2	▲2
火入れ	3	0	2	0	1	0
放火	0	0	3	1	▲3	▲1
放火の疑い	11	6	14	3	▲3	3
その他	7	1	3	1	4	0
不明・調査中	5	1	9	1	▲4	0
合計	58	19	79	22	▲21	▲3

救急 軽症患者が全体の約半数

上半期に出動した救急件数は6,941件でした。事故種別では急病が4,431件と最も多く、全体の約64%を占め、次いで一般負傷が1,257件(約18%)、交通事故が419件(約6%)でした。昨年同時期と比較すると、出動件数は990件減少し、搬送人員は919人減少しました。

急病件数の減少要因の1つとして、新型コロナウイルス感染症対策でマスク着用や手洗いなどが徹底されたことによる、感染症患者の救急搬送減少が考

えられます。引き続き、感染症にかからないように新しい生活様式を継続しましょう。

救急概況 ▲は減を示す

区分	令和2年上半期	令和元年上半期	比較
出動件数(件)	6,941	7,931	▲990
事故種別(件)	急病	5,010	▲579
	一般	1,257	5
	交通事故	419	▲196
	その他	834	▲220
搬送人員(人)	6,323	7,242	▲919

救助 建物等による事故が増加

上半期の救助件数は76件でした。うち交通事故が32件で全体の約42%を占め、次いで建物等による事故が26件、それ以外の事故が18件でした。

近年、建物等による事故が増加傾向にあります。多くは高齢者が建物内に居るが外からの呼び掛けに応答がないという内容でした。なお、救助については、新型コロナウイルス感染症による特別な傾向は見られませんでした。

台風や前線の影響で、大雨、洪水、暴風、高潮による自然災害が発生しやすい季節です。防災気象情

報を有効に活用し早めの行動を心掛け、危険な箇所には近寄らないよう注意しましょう。

救助概況 ▲は減を示す

区分	令和2年上半期	令和元年上半期	比較	
救助件数合計(件)	76	77	▲1	
救助種別(件)	交通事故	39	▲7	
	水難事故	4	▲3	
	機械による事故	0	▲2	
	建物等による事故	26	17	9
	上記以外の事故	14	12	2